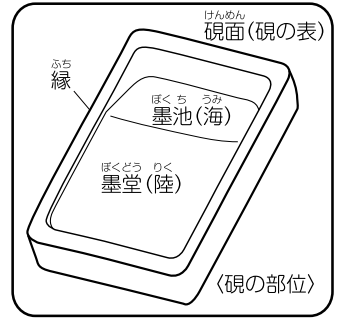


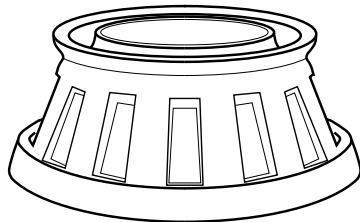
現代はさまざまな文房具があるため、使う機会が少なくなりましたが、昔は「硯」で墨を磨り、筆で文字を書いていました。今回は遺跡で見つかる「硯」の歴史をお話します。

☆硯はいつから日本にあるの？

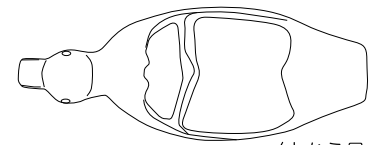
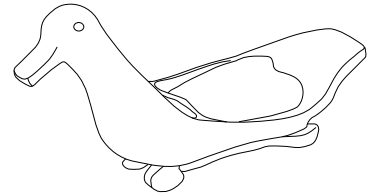
日本では飛鳥時代頃（7世紀頃）から、主に役所やお寺で硯が使われ始めました。当時の硯は粘土を焼いて作られ、円面硯（硯面が丸いもの）、風字硯（硯面の形が「風」の字に似ているもの）、形象硯（動物などをかたどったもの）など、さまざまな形のものがありました。



円面硯の破片（龍光遺跡出土）



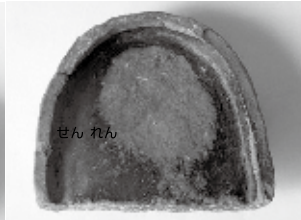
↑円面硯（復元図）



（上から見た図）



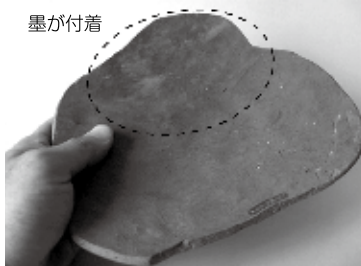
風字硯（山城上遺跡出土）



↑上から見た風字硯
「風」の字に見えるかな？

風

↑鳥形硯（形象硯の一種）
奈良県の平城京跡などで確認されています。



墨が付着
かめ
てんよう
甕の破片を転用した硯

☆代用品の硯

左の写真は、硬く焼き締まった甕の破片をリサイクルした硯（甕転用硯）です。破片の形を持ちやすく削り、内面は墨が付着しやすくなっています。使っていた硯が壊れたのか、あるいは硯の数が足りなかったのか、正式な硯の代用品として使用されていたのでしょうか。

☆石製の硯はいつから使われたの？

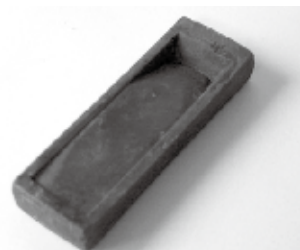
平安時代頃（11世紀頃）になると、石製の硯が使用されるようになります。写真左は河越館跡（上戸）から出土した室町時代頃の硯です。ごつごつした石の形が残る武骨な姿ですが、今の硯に近い、長方形になってきました。

写真右は弁天南遺跡（仙波町）から出土した、江戸時代頃の硯です。今の硯とほとんど同じ形をしています。

このように、硯は文字を書く際の必需品として昔から日本人に愛用され、時代とともに形や素材が変化してきたのです。



室町時代頃の石製硯
（河越館跡出土）



江戸時代頃の石製硯
（弁天南遺跡出土）

教育相談Q&A

◆集中力が続かず、落ち着きにかける小学二年生

【Q】小学二年生の息子をもつ母親です。息子は気が散りやすく、集中して物事に取り組むことができません。授業中も、勝手に出歩いてしまっているそうです。家でもよく言い聞かせているのですが、なかなか改善しません。どうしたらよいのでしょうか。

【A】小学校低学年の頃は、何事においても興味関心が高く、好奇心旺盛な時期です。「落ち着きのなさ」は「元気がある」とも言えます。まずは、元氣よく登校しているお子さんを認めてあげてはいかがでしょうか。

なかなか授業に集中できず、「どうかしたい。周りの子に迷惑をかけないで欲しい。」と思われるお気持ち、お察しします。物事に集中できる時間は、お子さんの成長とともに少しずつ増えていくのですが、なかには、身の回りにあるさまざまな刺激で、集中することが苦手なお子さんもいます。そこで、次のように、お子さんに接してみてもはいかがでしょうか。

①落ち着いた環境をつくる

テレビの音や人の声、周りにあるおもちゃなどが

が刺激になってしまい、集中力を欠いてしまうことがあります。また、兄弟が遊んでいると一緒に遊びたくなってしまします。家庭でも、集中できるような環境をつくっていくようにしましょう。勉強の時はテレビを消す、必要のないものは片付ける、兄弟そろって勉強をするなど、ちよつとした配慮でお子さんに変化してくるかもしれません。また、勉強の時間と遊びの時間をしっかりと区別するなど、メリハリをつけることも大切です。

②自信がもてるようにする

お子さんが集中できないことで、つい叱ってしまふことが多くなつていませんか。「短時間でも集中できた」「苦手なことにチャレンジできた」「約束していたことができた」など、ちよつとしたことでもたくさんお子さんを褒めてください。お子さんも褒められることで、「やればできる」といった自信をもてるようになり、次のチャレンジへの意欲にもつながります。お子さんの自ら成長する気持ちを大事にしてあげてください。

もしも、集中することがきわめて難しく、学習や生活に支障をきたす状態が続くようでしたら、川越市立教育センター分室（リベール）等にご相談ください。

教育センター分室（リベール）

面接相談（予約制）：TEL 234-83333

電話相談：TEL 234-83335

育英資金 ～借り入れ申し込み案内～

問い合わせ…教育総務課総務担当 TEL 224-6074

来年4月から高等学校・中等教育学校（後期課程に限る）・高等専門学校・短期大学・大学・専修学校に進学する方または在学中の方で、経済的に学資金などの支出が困難な方に、無利子で資金をお貸しします。

対象（次の要件をすべて満たす方）…①市内に引き続き6か月以上在住している②経済的理由で、学資金や入学準備金の支出が困難である③心身健全で、かつ学業成績が良好である

償還期間…貸付期間の2倍（据え置き期間＝卒業後6か月）

提出書類…①学資金・入学準備金借入申請書②校長の推薦書③成績証明書④健康診断書⑤住民票（家族全員のもの）⑥合格通知の写し⑦保護者全員の平成27年分源泉徴収票または確定申告書控えの写し

* ①②の用紙は、教育総務課・市立中学校に用意してあります。市のホームページからもダウンロードできます。（ホームページ＝<http://www.city.kawagoe.saitama.jp/>）

* ⑥は、申込期間後の提出も可能です。

申し込み…平成28年2月1日（月）～3月2日（水）（厳守）に教育総務課（市役所東庁舎2階）へ直接持参

区分	貸付額		
学資金（月額）	高等学校 中等教育学校 （後期課程に限る） 専修学校	国公立	13,000円
		私立	20,000円
	高等専門学校		16,000円
	大学（短期大学含む）		30,000円
入学準備金	高等学校 中等教育学校 （後期課程に限る） 専修学校	国公立	150,000円
		私立	280,000円
	高等専門学校		160,000円
	大学（短期大学含む）		360,000円

* 貸付決定にあたっては、審査があります。申請された方全員に貸し付けが決定されるとは限りません。